

令和4年度 第2回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 令和5年2月1日(水) 午後2時00分～午後3時30分  
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 10名

○館出席者 7名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会  
運営委員 2名

【議 事】(1) 令和4年度事業報告

- ア 展覧会事業
- イ 芸術・教育普及事業
- ウ 施設の利用状況
- エ 作品収集状況

(2) 令和5年度事業計画

- ア 展覧会概要及びスケジュール
- イ 芸術・教育普及事業・施設維持管理業務

(3) その他

1. 開 会

館長より、令和4年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催する旨の挨拶。

2. 挨拶

運営委員長代理が、ウィズコロナで世の中が動き始めていて、コロナ前の観覧者数に近づけるように、道外の観光客や若い方たちにもっと来館していただくための取り組みを行っていききたいので、本日も忌憚なきご意見を伺いたい旨の挨拶を行った。

3. 協議会成立等について

館長が令和4年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、コロナ禍の状況に加え、遠方からの委員もおられるため、午後3時半までに終了としたい旨を説明、次に委員数15名中過半数の10名が出席となり、運営協議会規則第7条2項により本協議会が成立する旨を宣言した。

会長より、短い時間の中でも円滑な進行と闊達な議論が行えるよう、ご協力いただきたい旨の挨拶があり、議事(1)に移った。

#### 4. 議 事

##### (1) 令和4年度 事業報告

館長より、展覧会事業の観覧者数や観覧料収入、事業費支出状況について報告。

次に、学芸主幹が各展覧会と関連事業等について報告。重要文化財を展示した「厚岸・国泰寺の200年」展を例にとると、「厚岸かぐら上演会」やボランティアの会 SOA による「お茶席」、さらにはバスを借り切って行った「国泰寺まるわかりバスツアー」についての説明があった。

次に、館長が教育普及事業については、管理課と学芸課が相互に連携し、幅広く多くのイベントを実施したことや貸館利用者数が回復傾向にあることを報告。

続いて、令和4年度の新たな取り組みを報告に移り、地域連携企画として、釧路芸術館のマスコット「ももちゃん」にちなんだ「もも得」については、現在14店舗と相互に利用客への割引やサービス提供を行い、集客アップを図っていることを説明した。同じく地域連携企画として、釧路ゆかりの詩人・石川啄木をめぐる多角的な芸術鑑賞体験を提供した「啄木ウォーターフロントツアー」や釧路観光コンベンション協会と連携した修学旅行ツアーや MICE の誘致についても言及した。

その他の新規取り組みとしては、当館主催行事参加者に団体割引券の配布や道立美術館相互のリピーター割引制度への参加などを報告した。

最後に、学芸主幹が今年度は7点の作品の受贈を予定していることを報告し、内訳は油彩が3点、水彩・素描が3点、彫刻が1点であるとした。また、寄託作品は2点と説明した。

会長 令和4年度事業についてご報告いただきましたが、委員の皆様から感想やご意見はございますでしょうか。

委員 バスツアーやものづくり体験などイベントが充実していると感じます。また、展覧会観覧者数に関しては目標達成度合いの向上が見られますが、要因は分析されていますか。

学芸主幹 今年度から新たな指定管理体制の5年間が始まり、観覧者目標の設定値が過去5年の数字に合わせて設定し直されましたので、目標値自体が低くなったという要素がひとつあります。具体的には、令和3年度の目標値26,600人に対し実績は11,743名、令和4年度の目標値13,400人に対し実績が13,249人です。館として観覧者数の目標を達成することが重要であると同時に、地域文化のすばらしさを知っていただくことにより、地域文化の価値を一層高めていくという役割も大切だと考えます。例えば、当館は釧路・根室地域の芸術文化をカバーすることをポリシーの一つとしておりますので、「厚岸・国泰寺の200年」展で非常に貴重な文化財をご紹介できたのは、観覧者数としては目標に

達しませんでした。が、とても意義のあることだととらえております。

こうした展覧会を毎年開催することはなかなか難しいですが、数年に一度、学芸員がしっかり調査研究した成果を皆さんに見ていただく機会を設けられればと思っております。

委員 釧路・根室地域に根差した釧路芸術館ですので、今のお話しは委員としてサポートしていく中で、前向きでいい話だと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

委員 お話を伺いまして、新しい取り組みの所で、連携が広まっているということで、私としましても刺激を受けております。

それから、子ども向けのトークを再開されている点ですが、道立近代美術館は今年度実施を見送った経緯がありますので、今後の参考にさせていただきたいと思ひます。

展覧会につきましては、バラエティに富んだ展覧会を開催していく中で、今年度では特に「厚岸・国泰寺の200年」展は、担当学芸員が長い時間をかけて調査研究をし、関係者の協力を得ながら貴重な文化財を展示できたということは、大変大きな成果だったのではと思ひます。

「ヨーロッパ版画の花束」展についての報告資料ですが、成果と今後の課題というところで、「来館者の方から広く広報がされていないことを残念に思ふ意見があった。出品作品の質の高さを来館者数に反映させるため、より効果的な広報活動が課題。」との記述があります。美術館の効果的な広報活動というのは永遠の課題という程、なかなか難しいものですが、広報不足という指摘は道立近代美術館の常設展でも必ず書かれていることでもありますので、むしろ私は様々な連携活動をすることで、展覧会の良さは浸透していくものだと考えております。

委員 令和4年度の展覧会事業について、全体としては観覧者数目標をほぼ達成した数字になっていますが、有料の展覧会だけでみますと、なかなか厳しいところがあります。収入が上がればより多くのお金を次年度以降の色々な活動に振り向けることができると思ふのですが、その辺どうお考えでしょうか。

館長 展覧会支出の実績合計額が1700万円、収入が250万円という現状でございますが、地方の美術館が展覧会事業で収支を整えるのは大変難しいところです。芸術教育文化の振興を目的とし、道立の社会教育施設としての役割を果たすために、こういった経費をかけて展覧会事業や教育普及事業などを行っているものでございます。ただ、当館は指定管理施設でありまして、道立直営館と異なり利用料金制度を取っており、収入が上がった分は自ら事業費に充当できることとなりますので、それが利点でございます。

従いまして私どもとしましては、少しでも有料の観覧者を増やすべく今後も努力して参りたいと考えております。しかしながら、そこだけを至上命題として追及すると、地域の芸術文化の発信拠点であることや、様々な教育普及事業により裾野を広げていくという役割が疎かになってしまいかねませんので、両者のバランスを上手く取って運営していくことが大切と考えております。

学芸主幹 補足ですが、厚岸国泰寺展の担当学芸員がポーラ美術振興財団から調査研究の助成金を得たので、撮影に資金を投入して図録を作ることができまして、しかも完売しました。

既存の予算の枠組み以外でも資金を確保できるよう努力しております。

委員 指定管理の委託料の増額はなかなか難しい状況の中で、外部資金を確保していくのは重要なことです。例えばクラウドファンディングで皆さんの協力があればこんなことが出来ますというアピールをして、事業費を確保していくというのも方法の一つなのではと思います。

会長 運営協議会では、財政面に触れることはあまりないかもしれませんが、外部資金の獲得や効率的な資金運用という点について、指定管理者としてどのようにお考えですか。

委員 今後、外部資金に目を向けることも重要になってきます。また、地域連携等の新たな取り組みによって観覧者数を増やし、収支を改善させることによって、展覧会事業ですとか施設の維持管理等に還元できる仕組みを目指していきます。

委員 現状配布されている展覧会事業の総括表だけでなく、決算書も拝見できれば、もっと議論が深められるのではと感じます。

運営委員長 代理 私どもは2018年度から指定管理を担っておりますが、前任の指定管理者から運営協議会の報告のし方を引き継いでおりまして、従いまして今まで資料としてご用意しておりませんでした。今後検討させていただきます。

委員 もう一点、一番広告費を費やしていた展覧会で「広報がなされてなくて残念」とのご意見があったということですが、今の若い方は新聞広告をたくさん出しても、全然わからなかったとか見ていなかったと言うことが多いです。その一方で、SNSはご高齢の方はなかなか見ないです。広報のし方というのは非常に悩まされる問題ですよ。あまり深刻にとらえなくてもよいのではないのでしょうか。

館長 SNSによる情報発信には今後とも力を入れていきたいと思っております。また、今年

度手応えのあった近隣の学校等へ直接訪問して PR するという事など対面的な PR 活動も続けて行ければと考えております。広報のし方に関して、委員の皆様から良いお知恵をお聞かせ願えれば幸いです。

会長 新聞の購読者で多いのはどの年齢層ですか。

委員 60代の方が多く、年齢層が下がるにつれて少なくなっています。広報としてチラシやポスターは昔ながらの方法ですが、アンケート等でマーケティングをされているのでしょうから、より効果的な広報手段に予算を投入してはどうでしょうか。

館長 ご指摘も踏まえ、より効果的な方策について検討して参ります。

## (2) 令和5年度 事業計画

館長より令和5年度展覧会計画の大まかな説明があり、次に井内主幹が各展覧会について関連事業も含めて説明を行った。

## (3) その他

館長が、「令和5年度からの新たな取り組み」について、説明を行った（4のみ運営委員長代理が説明）。

### 1. 開館25周年記念事業

開館記念日における記念イベントの実施や所蔵品の中から選りすぐった作品の図録作成等。

### 2. 芸術館キャラクターの活用促進

「かもめのももちゃん」の広報物等への掲載機会拡大を始めとした PR による認知向上。

### 3. 地域連携の拡充

くしろステイメンバーズカード（釧路市の長期滞在者向け優待サービス）対象施設として参加することで、観覧料割引の実施。

### 4. 施設・設備の維持管理

展示室やトイレ照明の LED 化、さらにトイレ照明を人感センサーによる点灯方式に切り替え。

委員                    開館 25 周年という節目の年ですので、地域連携等々より重要になってくる  
と思います。また、設備の維持管理のお話しですと、釧路芸術館のアートホール  
にはスタインウェイというすばらしいピアノがありますが、20～25 年がオー  
バーホール（総点検）の目安です。貴重な道民の財産として末永く使えるよ  
うに、是非お願いしたいと思います。それから、アートホールのバトンはワイ  
ヤーや滑車など経年劣化しますので、点検や交換を行ってください。

                            また、アートホールの客席灯や作業灯については LED で結構だと思います  
が、舞台照明の LED 化に関してはまだ一般的に発展途上などところがあります  
ので、現状のものがまだまだ主力であると感じております。

会長                    全体を通して他にご意見はありますか。ないようですので、ここで  
進行を事務局にお返しいたします。

                            館長より次回の運営協議会は令和 5 年 7 月に予定していることと、議事録は会長に  
内容の確認を取った上で、委員名を伏せた形で当館ホームページに掲載することの説明  
があった。

                            運営委員長代理より、貴重なご意見をいただき、身が引き締まる思いであること、釧  
路市とも連携して釧路芸術館を盛り上げていきたい旨の挨拶があった。

                            全ての議事が終了したため、令和 4 年度第 2 回北海道立釧路芸術館運営協議会は閉会  
となった。